

LIBRARY

No.5 平成 27 年 1 月 28 日

津田沼高等学校図書委員会

お待たせしました、図書委員会の広報です。

図書委員おすすめの本を紹介したいと思います。

卒業前の三年生のみなさんも、入試が終わったら気分転換にでも読んでみてください。

☆小説☆

『青空のむこう』 アレックス・シアラー 著金原 瑞人 訳

～＜彼方の青い世界＞に行く前に…～

まず、あの世で最初にすることは、名前を登録することだった。

＜死者の国・入口＞を通り抜けたら、出口はない。

矢印がふたつあって、どちらにも吹き出しがついている。

＜現在地＞

＜彼方の青い世界＞

しかし、＜生者の国＞でやり残したことがあると、＜彼方の青い世界＞にはいけない。

それをこなすために、主人公のハリーは案内役のアーサーと一緒に＜生者の国＞を目指して駆け出した。

ハリーが生きている友達・家族・知り合いに、聞こえないけど語りかける場面がとても涙があふれる。

「失ってみて初めて気づいた大切なもの・こと」を教えてくれる本です。



『四日間の奇蹟』 朝倉卓弥作

～ピアノの旋律が映し出す光景～

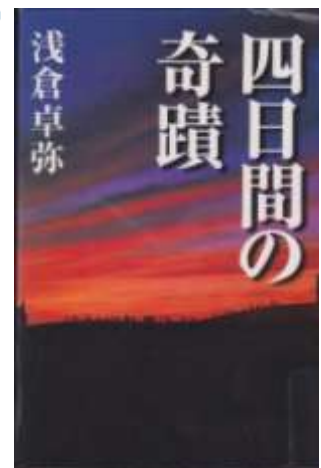
知的障害のある千織がピアノで周りの人々を引き込ませる。

内気でなかなか知らない人には心を開かなかった。

しかし、出来事を通して様々なこと知り、

理解していくことで成長していく。

「失ったこと・ものと一緒に良いこと・ものもついてくる」そのことを教えてくれる本です。



.....

『砂漠』 伊坂幸太郎作

～「なんてことは、まるでない」～

「その気になればね、砂漠に雪を降らすことだって、余裕でできるんですよ」

仙台のとある大学で出会った 5 人の男女の、春夏秋冬、そして春を描いた青春小説。伊坂幸太郎にしては珍しい清涼感あふれる物語——かと思

いきや、良い意味で期待が裏切られます。麻雀、合コン、ボーリング、

超能力、そして犯罪事件。それらが複雑に絡みあって彼らの大学生活を

形づくっていて、主役の 5 人はとても独特で、読んでいるうちに友達になりたくなってくるくらい魅

力的です。また、文章がシンプルで、長文を読むのが苦手な人でもさらさら読みすすめられます。そ

のうえ、とにかく伏線が豊富で、読み終えたときの爽快感がたまりません。

.....



.....

『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ作

～「砂漠が美しいのは、どこかに井戸をかくしているからだよ……」～

サハラ砂漠に不時着したパイロットの「僕」は、広大な砂漠のまんなかで、不思議な王子様に出逢う。

「ね...ヒツジの絵をかいて！」

「ほんとうにたいせつなもの」とは、「友達」とはどういうことなのか。

王子さまが自分の星を出て地球に辿りつくまでに訪ねた 6 つの星のかわったおとなたちや、仲たがいでしまった一輪のバラ、キツネの友達などのおはなしを通して、それらを問いかける物語。

多くの方はすでに読んだことがあるかと思いますが、しかし、この作品は読んだときの年齢や心の状態によって、感想がおおきく変わってきます。そこが一番の魅力なのです。また、出版社によって訳がさまざまなので、読み比べてみるとなかなか面白いです。(作家の三田誠広も訳を手掛けています！)

いま、「高校生のあなた」は、どんな感想を持ちますか？

.....

